受験番号	
氏 名	

**

2023年度 東京未来大学入学者選抜試験 一般選抜 D日程(3月14日実施)

国語

【注意事項】

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験時間は1科目60分です。
- 3 原則として、途中退出は認められません。試験中に気分が悪くなった人や、 トイレに行きたくなった人は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始の合図の後、受験番号・氏名を、問題冊子と答案用紙の該当欄にそれ ぞれ正しく記入してください。
- 6 解答は、シャープペンシル又は鉛筆で記入してください。
- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離して はいけません。
- 8 「やめ」の合図があったら速やかに筆記用具を机上に置いてください。
- 9 試験終了後、問題冊子、答案用紙はすべて回収します。
- 10 その他、必ず監督者の指示に従ってください。

I 現代文 一般選抜 D日程(3月14日実施)

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

規模な調査が行われた。幼稚園の四~五歳児クラスの子どもを対象に、かな文字の読み書きの実態が調べられた。 今から二十年以上も前になるが、一九六七年の秋に、国立国語研究所の村石と天野の手によって、幼児の読み書き能力についての大

文字以上読め、その六四パーセントは、六十文字以上読むことができた。四歳児のクラスでも、二十一文字以上読める幼児は半数以上 習得状況は、めざましいものであった。五歳児クラスの八二パーセントの幼児が、濁音、半濁音も含めたひらがな七十一文字中二十一 五歳児 (年長組) にとっては、小学校入学の五ヵ月前、四歳児にとっては、 約一年半前の時点であったが、子どもたちのひらがなの

(五三パーセント) おり、六十文字以上読める者は三割強もいた。 これ以降、このような大規模な調査は行われていないが、(①)今日では、ひらがなの読める幼児の割合は、さらにもっと増えて

いるであろう。 最近、千葉大学の学生二名がそれぞれ卒業研究のために、千葉市内の私立保育園で調査したところでは、九月の時点で、五歳児クラ

スでは六十文字以上読める者が八○パーセント以上いた。さらにかな文字七十一文字だけでなく、五種類の特殊音節(「おちゃ」「きっ 味を正しく理解することができたのである。 しかも、六十文字以上習得している子どもの七割近くが、十一~二十七文字から成る文 (ただし特殊音節を含まない) を読み、その意 て」「こしょう」など)のすべてを習得している子どもが、二〇パーセント以上にもなっていた(六七年の時点では八パーセント弱だった)。

ているという家庭は、 どちらも「否」である。一九六七年次の調査では、同時に親に対してアンケート調査を行っているが、ワークブックなどを使って教え ~二割にすぎなかったのである。 このような結果は、家庭で親が文字を教えこんだことによるのだろうか。それとも園で、組織的に文字教育をしたためであろうか。 一割程度のごく一部にすぎなかった。また幼稚園でも、文字について積極的な指導を行っていると答えた園は

から「うちの園では文字指導をしていないから、子どもは文字が読めない。だから文を読めるかどうか調べるなんてとても無理だ」と とが示されている。先の卒業研究のために学生が訪れた保育園でも同様であった。研究の『シュシを話した学生たちは、 この事情は現在でも変わりがない。最近の文部省(注、現文部科学省)の調査でも、組織的に文字教育をしている園は少数であるこ いずれも園長

反対されている。

る。この事実は、おとなの側に文字について特別なにか子どもに教えた、という意識がないことをよく示していよう。 しかし実際にやってみると、先に述べた通りであり、その結果に、逆に園長以下保母たちが驚いた、というエピソードが残されてい

しい学習なのであろうか。決してそうではない。むしろ文字は、一般的にいえば、学びにくい性質をもっている。 ②)、とくに何も教えられていないにもかかわらず、なぜ子どもは文字を読めるようになるのだろうか。文字学習は、 特別やさ

るよう文化が助けているからだ、と見るべきであろう。 なぜこのような本来学びにくいはずの文字学習を、幼児はいともたやすく成し遂げてしまうのであろうか。これは、容易に学習でき

以下、この助けがどのようなものであるか、具体的に見ていこう。

音節が何であるかを、とり出していうことができなければならない。これらを総称して、音韻的意識(音韻処理技能とでもよんだほう が正確だが、通常こうよばれている)とよぶとすれば、この音韻的意識が、文字を学ぶうえでは重要なのである。 つのことが必要である。第一に、ある単語を音節に分けることができなければならない。第二に、少なくともその単語の一番はじめ かな文字の習得について精力的に研究を進めてきた天野の研究を参考に考えてみると、かな文字の習得の基礎として、少なくとも二

は「ぎ」である。このことは、私たちおとなはすぐわかる。しかし幼児にとっては、それほどやさしいことではない。 「ウサギ」ということばは、「う/さ/ぎ」という三つの音節から成っている。そして一番はじめの音節は「う」であり、 番最後の音節

るという。(語尾音節のほうは語頭音節よりややむずかしく、前者で五割、後者で八割である。) いく。ひらがなが一~五字読める子どもではその七割が、六~二十五字読める子どもでは九割以上が、語頭音節をとり出すことができ はどこにあるかという問いに、一番最初に並べた積木を指さす、といったことは、四歳前半の子どもでは、約半数しかできないという。 このような音韻的意識は、子どもがまだかな文字を一字も読めない段階から少しずつ発達する。つまり文字習得に先行して発達して たとえばウサギの絵をみて、「う、さ、ぎ」といいながら、その絵の下に音節の数だけ何も字の書いていない白積木を並べ、さらに「う」

報告されている。 頼りに復習することができるのである。先の国立国語研究所の調査でも、多くの家庭にこうした文字積木や文字カードがあったことが ひらがなは、「う」らしいと推測することができる。教えられれば、「ははぁ、なるほど」と納得できる。忘れれば何回でも、文字積木を ウサギの絵を見て、その一番はじめの音節が「う」であることが識別できれば、親に教えられなくても、ウサギの絵の裏側にあるこの 確かに、これらの音韻的意識があるおかげで文字の習得が容易になることは、文字積木一つをとってみてもよくわかろう。たとえば

意識がいっそう発達し、それが文字習得に、ハクシャをかけるからではないか、と考えられている。 を越えると、そのあとは急速に習得速度が増すことが知られている。これは、二十字くらいかな文字を習得することによって、 一般的にいえば、子どものかな文字の習得は、同じ速さで進むのではなく、はじめの二十字までは非常にゆっくりであるが、

学習は(Ⅰ)になる、という。 な文字の学習はきわめて困難である。逆に、こういう音韻的意識の発達を促すような特別な訓練をあらかじめしてやれば、かな文字の とき、すなわち、単語を音節に分け、その一番はじめの音節をとり出すことができないときには、どんなに教えようと訓練しても、か ③)天野は、文字をまったく知らない子どもに対しての「訓練」実験を行っている。それによると、子どもの音韻的意識が低

づかせないままに導入・保持してきたのではないか、と考えられることである。 とくに書きことばをもつようになってからは、こういった音韻的意識を発達させるさまざまな遊びを、子どもたちのなかに、それと気 こう見てくると、音韻的意識が、文字習得の基礎として重要であることが納得できるであろう。興味深いことは、それぞれの文化は

♡興じながら、子どもたちはしらずしらずのうちに、単語を(Ⅱ)に分けることを学んでいくであろう。 みよう。歌に合わせて子どもは、手のひらを開いたりとじたりするわけだが、これは、一音節一拍から成り立っている。この遊びに 幼児期によく行われるむかしながらのリズム歌や手遊び歌はその一例である。たとえば、「むすんで、ひらいて」の歌をとりあげて

解を促す遊びと考えられる。(「チョ」とか「ナッ」のようにわざわざ特殊音節を含むことばにしてあるのもおもしろい。) ジャンケンをし、勝ったほうが、チョキなら「チョコレイト」、パアなら「パイナップル」といって歩いていく遊びも、

を探すことができなければならない。それがうまくできないと、他の子どもたちから誤りを指摘され、別のことばを探すよう求められ げられよう。しりとりができるためには、前の人がいった最後の音節がとり出せなければならない。そしてその同じ音節で始まる単語 音節に分けるだけでなく、音節をとり出す遊びとしては、「かるた」などもあるが、なんといっても「しりとり」がその好例としてあ

るほどだ。しかし、子どもたち同士で遊んでいるのを見ていると、幼児でも、ときどきまちがえながらもお互いに教え合って、結構楽 しそうにしりとり遊びに興じている。また、しりとり遊びは、家庭のなかで、親子の間でもよく行われる。 しりとりがほぼ誤りなくできるようになるには、その前に特殊音節を含む文字が獲得されていることが必要だと示唆している学者もい 「しりとり」においては、ときどき出てくる特殊音節を含む単語(たとえば、「きしゃ」など)への対応が、幼児にはかなりむずかしい。

このような遊びに参加するなかで、音韻的意識の育つ機会がそれだけ多くなり、それによって文字の習得が助けられるのであろう。 (稲垣佳世子・波多野誼余夫 『人はいかに学ぶか』 中央公論新社より]

文章中の(ア)・(イ)のカタカナを漢字に直しなさい。また、(ウ)の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。なお、漢字及びひら がなは丁寧に書きなさい。

ア シュシ イ ハクシャ ウ 興じ

文章中の(①)・(②)・(③)に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

オ さらに カ もちろん キ おそらく ク しかしながらア あるいは イ つまり ウ では エ したがって

文章中の(Ⅰ)·(Ⅱ)に入る最も適当な言葉を、文章中の他の部分から探して、それぞれ漢字二文字で答えなさい。なお、漢字は楷 書で丁寧に書きなさい。

四 この文章は、全体が大きく三つに分かれており、その各部分に以下の見出しがつけられている。それぞれの見出しの直後に続く一 文の最初の十文字を答えなさい。(句読点がある場合は、句読点も含む。)

「話す」から読み書きへ

遊びを通しての文字学習の準備

ウ 教えられずに学ぶ読み

五. この文章は主としてかな文字の習得に関する何について述べた文章といえるか。その内容を端的に示す言葉を文章中から五文字で 抜き出して答えなさい。

六 次に示す一段落が、本文中から欠落している。正しく挿入した場合、後に続く段落の最初の五文字を答えなさい。(句読点がある 場合は、句読点も含む。)

機づけをひき起こしにくく、多くの人にとってそれほどたやすく達成できるものではないのである。 じめて識字学習も報いられたということになる。概していえば、こうした道具的な性格をもった学習は、動 とっていっこう価値のあるものではない。識字を学び、そのうえで、この技能を使ってなにかを学んで、は つまり識字すなわち文字からそこに書かれたアイディアを表象する技能は、それ自体は、人間の生活に

${ m I\hspace{-.1em}I}$ 言語事項・文学史 般選抜 D日程(3月14日実施)

次の①~⑤の空欄に、上に示した意味になるようにあてはまる漢字一文字を書き入れなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさ

人間の運命がはかり知れないこと。

「塞翁が()」

3 2 相手の急所をおさえた痛切な戒め。 切っても切れない親しい関係。

「水()の交わり」 「二の()を演じる」 「頂門の一()」

4 人のした失敗を繰り返すこと。

元気なくしょげる様子。

次の①~⑤の四字熟語の空欄に入る適当な漢字一字を答えなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

嘘や偽りのないこと

「正真正 ()」 「自()自縛」

自分の言動が自分を束縛して苦しむこと 力の限り努力すること

2

「一網打()」 「百家争()」

多くの者が自由に意見を言い合い論争すること

4 3

度に全部を捕まえること

- 1 柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺
- 3 2 桐一葉日当たりながら落ちにけり
- 分け入つても分け入つても青い山
- 金色のちひさき鳥の形して銀杏ちるなり夕日の岡に

4

(5)

みちのくの母のいのちを一目見ん一目見んとぞただにいそげる

ア 1 北原白秋 斎藤茂吉

ウ

エ

種田山頭火 与謝野晶子

丰 力 オ 若山牧水 正岡子規 島木赤彦

高浜虚子 河東碧梧桐

ク

石川啄木

Ⅲ 現代文 一般選抜 D日程 (3月14日実施)

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

学という『営みの最初のプロセスです。 科学的な態度とは、疑問や問いを持って物事を見るということです。そして、観察した物事を_A_して仮説を立てることが、科

そんなことがわかるのでしょうか。 うこと。相関関係とは、二つのものごとが単にかかわり合う関係、因果関係とは、二つのものごとが原因・結果でつながる関係です。 二〇〇三年に、国立教育政策研究所が、毎日朝食をきちんと食べている子どもは成績がいいという研究結果を発表しました。なぜ しかし、この仮説を立てるときに、私たちがよくやりがちな失敗があります。それは、 相関関係と因果関係を取り違えてしまうとい

子どもの学力が上がる」と主張する人が出てきたのです。 し合わせてみると、成績のいい子どもの多くが、毎日きちんと朝食を食べていることがわかりました。この結果から、「朝食を食べると、 毎年、文部科学省は全国学力テストを実施していて、テストと同時にアンケートも取っています。テストの結果とアンケートを照ら

強に集中することができるから、学力が高くなると考える。つまり、朝食と学力の間に因果関係があると考えたわけです。 そういう人は、朝食を食べるときちんとした栄養が体内に入って、脳にエネルギーが送られ、それによって午前中からしっかりと勉

①)、朝食を食べたほうがいいに決まっていますが、これを本当に因果関係と言えるのでしょうか。

朝食を毎朝きちんと食べているということは、規則正しい生活を送っているということです。深夜遅くまでダラダラと起きていれば、 ギリギリに起きて、朝食を食べる間もなく学校に行ってしまうでしょう。

る必要が出てきます。 たり塾に通わせたり、子どもの学習に積極的にかかわる親も多いかもしれない。そうなると、親のしつけと学力という因果関係も考え がいるのではないでしょうか。そういう親は、朝食をきちんと食べさせるだけではないでしょう。それ以外に、「勉強しなさい」と言っ では、規則正しい生活をしているのはどういう子どもでしょうか。おそらく、そういう子どもには、規則正しい生活をさせている親

の指導に熱心だから、勉強も熱心に教えるのではないでしょうか。この場合、先生の熱意と学力との間に因果関係がある可能性もある ②)、学校の先生が「きちんと朝食を食べましょう」と、生徒に指導をしていたら、どうでしょうか。こういう先生は、子ども

れけです。

ら学力が上がる」という(Ⅱ)関係があるとまでは言いきれないということです。 つまり、「朝食を食べること」と「学力が高い」の間には、(I)関係があるとは言えるかもしれません。しかし、「朝食を食べるか

世界の国々の十五歳の子どもたちが受けています。そのでブンセキから、新聞を読んでいる子ほど学力が高いという結果が出ました。 新聞社は大喜びです。喜ぶのはいいけれど、勢いあまって「新聞を読むと、子どもの学力が上がります」と言ったら、これは科学的 同じような例で、〇ECD (経済協力開発でキョウ)が実施しているPISAというテストがあります。このテストは、三年に一度、

な態度として失格でしょう。つまり、これも相関関係を因果関係と取り違えているということです。

スや新聞に関心を持つというわけです。 たしかに新聞を読んでいれば、学力が上がるのかもしれない。でも、逆の解釈もできるでしょう。(③)、学力が高い子が、ニュー

う因果関係は導けないのです。 統計的に「学力の高い子は、ニュースへの関心が高い」ことがわかっただけでは、「ニュースに関心を持つと、学力が高くなる」とい

は古代ギリシャの偉大な哲学者であるアリストテレスも同じでした。 相関関係と因果関係の取り違えからもわかるように、見た目だけにとらわれると、私たちは間違った仮説を持ちやすいのです。それ

かりますね。あるいは、遠くで船を漕いでいるオールが水をバシャッと叩いた。それは瞬時に見えるけれども、そのオールが水を叩くたとえば、稲妻が光ってから雷鳴がとどろくまで、時間差がある。ピカッと光ったのに、ゴロゴロという音が届くまでには時間がか 音が自分のところで聞こえるまでには時間がかかります。 紀元前四世紀にアリストテレスは、音は光よりもスピードが遅いことに気づきました。どうして、そのことがわかったのでしょうか。

こうしたことを観察して、アリストテレスは、音速は光速よりもずっと遅いと考えたわけです。

この仮説が正しいことを私たちは知っています。 当時は、光速を測るような機器はありませんから、光の具体的なスピードはわかりません。でも、観察から導いたアリストテレスの

きっとその物体にはもともと下に向かって落ちていく性質があると考えました。 しかし、観察するだけでは誤ることもあります。アリストテレスは、なぜ物が落ちるのだろうかと疑問を持ちました。考えた結果

から、上に向かっていくのだ。そういうふうに理論を立てたのです。 だとブンセキしたのですね。その逆のケースもあります。火花が空に向かっていく。すると、火花はそもそも空にあるのが自然である たとえば、土を落とすと地面に落ちていくのは、土は本来、下にあるのが自然な状況であり、その自然な場所に行こうとしているん

のように、今から見ても正しい仮説がある一方、物体の運動については、勝手な決めつけをしてしまったのです。 現代の眼からはヘンテコな理論に見えますが、それは私たちが重力や万有引力の法則を知っているからでしょう。 紀元前四世紀の段階で、アリストテレスはさまざまな自然現象をブンセキして、仮説を立てました。そのなかには音速と光速の関係

さきほど説明したような検証という手続きを経て実証しないと、勝手な決めつけになってしまうということです。 ただ、その『どちらもまだ「実証」という手続きには至っていません。観察をすれば、仮説はいろいろ立てられます。でも、その仮説は、

(池上彰『はじめてのサイエンス』 NHK出版より)

文章中の(ア)の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。また、(イ)・(ウ)のカタカナを漢字に直しなさい。なお、ひらがな及び 漢字は丁寧に書きなさい。

営み イ キコウ ウ ブンセ

ア

文章中の(①)・(②)・(③)に入る最も適当な言葉を、それぞれについて次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

オ ところが カ まったく キ まさか ク あるいはア つまり イ たしかに ウ ならびに エ だから

文章中のA に入る最も適当な言葉を、次のア~エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 具体化 イ 相対化 ウ 抽象化 エ 絶対化

四 書で丁寧に書きなさい。 文章中の(Ⅰ)・(Ⅱ)に入る最も適当な言葉を、文章中の他の部分から探して、それぞれ漢字二文字で答えなさい。なお、漢字は楷

(順不同)

五 文章中の傍線部B「どちらも」とあるが、その示す内容を二つ、それぞれ八文字以内で文章中から抜き出してそのまま書きなさい。

問題は以上です。